

論壇

共和党の色彩強い政治に

米国の大統領選挙は、大方の予想に反してトランプ氏が当選した。市場は選挙直前はクリントン氏の勝利を織り込んで、株高円安の動きとなった。開票が進んでトランプ氏の優勢が伝えられると、株価は暴落して、為替レートは大幅な円高となった。少し前の巨額離脱の国民投票のときの残像を見るようだった。

株価が大きく下がり、為替レートが円高に振れたのは、市場がリスクを嫌ったからだ。市場関係者

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

はこうした事態をリスクオフと呼ぶ。今後の展開に不確定性が大きいので、とりあえずは安全資産に逃げようというのだ。株から国債へ、ドルや新興国の通貨から円などの通貨へのシフトが起きる。それが株安と円高を引き起こすことになる。選挙直後の市場の動きで

新たな米大統領と市場動向

特に注目されたのは、メキシコの通貨ペソの急落だった。トランプ氏が選挙戦でしばしばメキシコとの国境に壁を作ると言及したこともあって、メキシコの通貨が注目されることになった。

さて、トランプ大統領になって、

な、民主党が進めてきた医療制度改革には反対。銃規制などにも反対。議会も共和党が過半数を確保したこと、米国の政治は共和党の色彩を強くすることになる。

1月の就任へ発言に注目

選挙戦のときに出てきたのは、こうした伝統的な共和党の政策とは違う極端なものが多かった。メキシコとの間に塀を作る。日本などに防衛力の増強を求める。アジアからの輸入に高い関税をかける。必要があれば世界貿易機関(WTO)からの撤退も辞さない。こうした極端な政策を行うことになれば、大きな混乱が起るようになるだろう。極端な主張はあくまでも選挙戦での論議であり、責任ある大統領の地位に就けば、より現実的な姿勢に戻ることを期待したい。

いずれにしても、まだ始まりの初めにすぎない。来年の1月の就任に向けて、大統領候補ではなく、大統領予定者としてどのような発言が出てくるのか注目したい。市場の方も、とりあえずはリスク回避ということで株安円高で動いたが、翌日には急反転。次の展開がどうなるのかは分からない。強いアメリカを予感してドル高(円安)株高に向かうのか、それとも当面の混乱の動きを続けるのか。いずれにしても、時代は大きく変わろうとしている。

たからだ。

ただ、共和党の候補としてのトランプ氏は多くの政策について、共和党的な主張を繰り返している。経済を活性化させる減税を積極的に進める。安易な温暖化ガス削減には慎重。オバマケアのよう

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。